

海の中に行く

[聖書]出エジプト記 14章 13～14節、21～31節

モーセは民に答えた。「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。あなたたちは今日、エジプト人を見ているが、もう二度と、永久に彼らを見ることはない。主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」

モーセが手を海に向かって差し伸べると、主は夜もすがら激しい東風をもって海を押し返されたので、海は乾いた地に変わり、水は分かれた。イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行き、水は彼らの右と左に壁のようになった。エジプト軍は彼らを追い、ファラオの馬、戦車、騎兵がことごとく彼らに従って海の中に入って来た。朝の見張りのころ、主は火と雲の柱からエジプト軍を見下ろし、エジプト軍をかき乱された。戦車の車輪をはずし、進みにくくされた。エジプト人は言った。「イスラエルの前から退却しよう。主が彼らのためにエジプトと戦っておられる。」主はモーセに言われた。「海に向かって手を差し伸べなさい。水がエジプト軍の上に、戦車、騎兵の上に流れ返るであろう。」モーセが手を海に向かって差し伸べると、夜が明ける前に海は元の場所へ流れ返った。エジプト軍は水の流れに逆らって逃げたが、主は彼らを海の中に投げ込まれた。水は元に戻り、戦車と騎兵、彼らの後を追って海に入ったファラオの全軍を覆い、一人も残らなかった。イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んだが、そのとき、水は彼らの右と左に壁となった。主はこうして、その日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルはエジプト人が海辺で死んでいるのを見た。イスラエルは、主がエジプト人に行われた大いなる御業を見た。民は主を畏れ、主とその僕モーセを信じた。

[1] 自由になることと神様を礼拝すること

「聖書教育」誌では今日は18章がテキストの箇所ですが、そこはもうあの「葦の海」を渡った後の出来事になってしまいます。やはり出エジプト記の中の最大の出来事とも言って良い「葦の海」を渡る奇跡の出来事は、教会という信仰共同体の群れにとっても、また個人の信仰の歩みにとっても大事な所だと改めて思われていますので、今日はそこを少しご一緒に味わってみたいと思います。

先週も見た通り、そもそも何故イスラエルの民がエジプトを出ようとしたかと言うと、それはもちろん休息なき奴隷状態から解放されること＝自由になる

と言うことですが、そのことと、まことの神様を礼拝するため、ということは一つのことでした。モーセとアロンは、エジプト王ファラオに、「私たちに祭りをさせて欲しい」(5:1)と直訴しているのですね。このことは考えさせられます。

私たちは、この世で少しでも人権が尊重されることを願い、まともな政治が行われることを願う訳です。そして、政治家たちは色々な政策を語り、それを支持する者が投票をしますよね。良いリーダーの存在は確かに大事です。けれども私が最近思うことは、このイザヤ書の言葉です。それは「鼻から息をする者を頼るな」(イザヤ 2:22 口語訳)です。人間の目に力強く見えるリーダー像だけを求めるととんでもない結果を見ることがありますよね。「この世の解放」(今だったらコロナからの解放も)は皆が待望することではありますが、それが全てではありません。それはまだ表面的だと聖書は語るのですね。最も根本的なことは、私たちが、まことの神様に聞き、この方の前に謙虚になり、礼拝することです。出エジプト記の解放の物語は、一民族の物語を超え、それを語っていると思うのです。

[2] 神様の奇跡と「教会」

ですから、私は思うのですが、ここで出エジプト記の立役者モーセを英雄視してもいけないと思います。モーセ自身、自分を頼れとは言っていませんよね。13節と14節にこうありました。—「モーセは民に答えた。「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。あなたたちは今日、エジプト人を見ているが、もう二度と、永久に彼らを見ることはない。主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」

モーセがイスラエルの民に強調していることは、「主の救い」、「主が戦われる」ということです。自分のリーダーシップや政治力ではないのです。ですからイスラエルの民に要求していることは「静まれ」ということです。口語訳では「黙していなさい」でした。人間のおしゃべりをやめて「祈っていなさい」ということだと思います。私たちは救われるために何か神様にふさわしくならなければならないとか、一生懸命自転車を漕ぎ続けるように努力しなければ、という必要はないのですね。むしろ逆です。—「落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい」、「あなたたちは黙していなさい」。私たちが救われるということは、神様が用意し、成し遂げられる救いを「黙して受け入れなさい」ということです。

そして、絶体絶命と思えるような中を、彼らは救い出された訳ですが、ここに私は教会の在り方というものも思われるのです。神様は凄いことをなさいま

した。海の中に乾いた地を作り、イスラエルの民を皆渡らせたというのです。壮年男子だけで 60 万人と言いますから、全体で 100 万以上、いや 200 万人ほどの群衆だったと言えます。ちなみに、川越市民が 35 万人だそうです。これだけの人々がまとまって脱出したというのは、それこそが大きな奇跡だと思います。モーセとアロンの統制力だけでまとまる筈はないと思うのです。

彼らは、海の中の道を「歩いて」行ったのですね。それしか方法はありません。想像してみてください。その中には歩くことが出来ない障碍者や病人、高齢者も当然いたでしょう。また、赤ちゃんや疲れ切ってしまった子供たちもいたでしょう。彼らは、先の「今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい」という言葉の前に、一つとなって、助け合って前進したのではないのでしょうか？ 歩くことが困難な人を背中に背負ったり、病人は担架のようなものを作って運んだり、そして、大きな恐れもある中、神様の約束を信じて励まし合って進んだに違いないと思います。—それは、この危機の中で、一緒に生きていくための愛の行為です。教会が出来ること、すべきことはそれなのではないのでしょうか？ 川越教会もいわゆる“出来上がった”教会ではありません。さらに様々な人々が加わってゆく、違うカラーを持った方も主にあって一致出来る、そんな教会となってゆきたいと思いますよね。それでこそ「救いの喜び」を、お互いに本当に喜べるのだと思います。

[3] 死んで、新しいのちの中に生きていく

今日の箇所を見ると、神様は正に人知を超えた出来事を表わして下さいました。エジプト軍もこの海の中を渡ろうとしたのです。けれどもそれはうまく行かず、25 節では、彼らは「退却しよう。主が彼らのためにエジプトと戦っておられる」と、それを認めざるを得なくなり、その後モーセが海に向かって手を差し伸べると、大水がまた満ちてエジプトの軍勢はそこに飲み込まれてしまいました。これは恐ろしい出来事ですね。本来は私たちは海の中に行くことなど出来ないのです。これはただ、神様の一方的な憐みの出来事だったのです。追ってくる者は消えてしまいました。このことは単に場所が移動したと言うことではありませんね。「支配」が移されたということです。これまで奴隷の家にあった彼らが、神様の御業によって完全に主なる神様の支配の中に移されたということです。

今日の招きの聖句を思い起こして下さい。「あなたがたはかつては神の民ではなかったが、今は神の民であり、憐みを受けなかったが、今は憐みを受けているのです」(ペトロ 2:10)。神様の憐み(救い)を受けているとはどういうことなのか、その前の 9 節ではこのように書かれていますね。「それは、あなたがたを暗闇の中

から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業をあなたがたが広く伝えるためなのです」と。一神様は、罪や悪の支配下から逃れることが出来なかった私たちに、神様の力によって海を渡らせて下さって、主なる神様の愛と恵みの支配下に移して下さった、それを感謝して広く伝えること、それが「礼拝」です。

聖書にとって、「水」とか「海」というのは、「命」とか「洗い清める」という意味もありますが、またそれは「死」の象徴でもあるようです。私たちにとっての出エジプト、それは「バプテスマ」、「洗礼」ともつながることで、水の中に入って古い自分が死に、水の中を潜り抜けて、新しいいのちの中に歩いて行くという信仰の出来事。その象徴がバプテスマですね。私たちは教会員の一員となるためにバプテスマを受けるというのではないのです。本質的には、神様はこんな私をも憐れんで下さって、この私が滅びないために、私に代わって主イエス様が十字架に架かり、甦って下さって、御国の祝福に生きる新たな希望を与えて下さいました。その霊的な「脱出」=出エジプトを、感謝を持って、自分の身をもって表わすこと、それがバプテスマです。

W・H・ウィリモンは、『洗礼—新しいいのちへ—』という本の中で、週報でご紹介した言葉の他こんなことを語っています。「教会が語るのは、洗礼を受けるまでは神の子ではない、ということではありません。洗礼を受けるまでは、自分が神の子であるということを知るのは難しい、と語るのです」と。洗礼・バプテスマを受けていようが受けていないかにかかわらず、神様は既に、私たちを神様の支配下、新たな命の中に置いて下さっているのです。主イエス様によって、ただ、そのことが、バプテスマを受けることによって、段々と自分の出来事になって来るのだと思います。私自身そうです。皆さんも同じ思いではないでしょうか？

すべては神様がして下さった奇しき御業です。私たちは皆、海の中に出来た道を進むことを許されて、今教会に集められているのです。でもこれで終わり、ではありません。出エジプト記もこのあとが「**荒れ野の40年**」、試練の中を歩んだのです。私たちも同じです。本当の御国に至る迄、私たちに必要なのは**忍耐**でしょう。けれども、その忍耐の歩みを、主イエス様が一緒になって歩いて下さる。これは確かなことです。今週も、主のみ言葉の励ましと慰めを頂いて、ご一緒に歩いて参りましょう。お祈りを致します。

主よ、私たちは本当に信仰がなく、すぐに自分中心の思いやつぶやきばかりが沸き起こってしまう者です。どうぞお赦し下さい。しかし、そんな私たちをあなたはもう古い自分ではなく、私の愛の中を新しく歩いて行けば良いとおっしゃ

って下さいます。感謝します。私たちの教会も共に励まし合い、助け合いながら、御国への道を歩ませて下さい。主の御名によって祈ります。アーメン。